



所属チーム / GRACE
出身地 / 栃木県 年齢 / 23才
持ち点 / 4.5

7

菅野 未和子

KANNO Miwako

車いすバスケットに感じた同じスポーツの醍醐味

菅野 未和子(4.5)

<新たに夢中になれた競技との出会い>

今年3月に大学を卒業した菅野未和子は、根っからのスポーツ選手だ。高校時代は女子サッカー部に、大学時代はラクロス部に所属し、夢中になって広いコートを駆け回った。

しかし、両膝の前十字靭帯を損傷し、4度の手術を経験。最終的には片方の膝に装具を付けて競技を続けてきたものの、これ以上の足への負担を考えると、競技続行の道に迷いが生じていた。

4度目の手術をした大学3年の秋のこと。リハビリもかねて足を使わずに体を動かし、体力を維持できるようなスポーツはないだろうか、とインターネットで検索すると、目に飛び込んできたのが、車いすバスケットボールだった。

「これならできるかもしれない……」

早速、自宅近くのクラブチームを訪れ、実際に体験してみた。もともと運動が得意の菅野は、車いすバスケットがそう難しいとは思っていなかった。「まあ、なんとかできるかな」。そう思っていた。

ところが、いざやってみると、すぐに難しいことがわかった。「え？車いすを漕ぎながら、ドリブルして、シュートも打つなんて……嘘でしょ？」

しかし、一方で、足を使わずともスピードを出して風を切る感覚が何とも言えず心地よかった。

その後、菅野は3カ月間、悩んだ末にラクロス部を退部することを決意。新たに出合った車いすバスケットの道に進むことを決めた。

<今は吸収し成長していく時>

菅野は、ともに汗を流した仲間たちと、同じ気持ちを共有し合いながら成長し続け、練習の合間に熱く話をするところ、スポーツの良さを感じていた。

車いすバスケットに熱中したのは、そうした過去に経験してきたスポーツの世界と、まったく同じ空間があったからだという。

「スポーツに、障がいの有無って関係ないんだなあと思いました。いろんな人たちとお話できることもそうですし、何よりやればやるほど少しずつ成長していける、終わりが無いようなところが楽しくて仕方ないんです」

車いすバスケットを始めて1年後の昨年10月、女子U25日本代表の候補に抜擢された。そして、見事に世界選手権のメンバー12人に選ばれた。

「最初は同世代の女子選手がこんなにいるんだ、と嬉しくて仕方ありませんでした」

とはいえ、当然、チーム内競争もある。特に、菅野と同じ持ち点4.5の選手は12人中5人と、最もポジション争いが激しい。

「確かに試合には出たいですし、ライバルと言えばライバルですが、でも私にはまだ覚えなければいけないことがたくさんあります。なので、周りを気にすることよりも、まずは自分自身を成長させることに集中したいなと思っています」

今は「吸収していく時」と捉えている菅野だが、もちろんやるからには上を目指している。「ゆくゆくは……」という思いを抱いてはいるが、今はそれを口にはしない。

着実に成長していくこと。すべてはその先にある。